

4月18日、産経新聞は朝刊の一面トップ記事において、「JR東労組スト権『確立』」と見出しを掲げ、国鉄分割民営化から30年が経過する中で、JRの主要組合で初めてとなる実質的なスト権の確立を大きく報じた。

## 産経新聞がスト権「確立」を1面トップで報道

JR東労組は「春闘に関するスト権は確立していない」とコメント

### 労使の対立関係に回帰することへ世論が懸念抱く！

産経新聞は、「JR東日本の最大労働組合『東日本旅客鉄道労働組合（JR東労組）』が、ストライキ権確立の意思を問う全組合員投票を行い、過半数の賛成を得ていたことが17日、JR関係者の話などで分かった」と1面トップという異例の扱いで報じた。記事の中で今回のスト権を巡る動きについて、ノンフィクションライターの西岡研介氏のコメントを紹介、「JR東日本がそれまでの歪な労使関係の見直しを進めたため、追い詰められたJR東労組が”伝家の宝刀”であるスト権を持ち出した。旧国鉄時代に逆戻りする動きと言わざるを得ない」と分析している。

今年4月で30年が経過した国鉄分割民営化であるが、旧国鉄時代に繰り返された労使の対立関係に回帰することに対し、依然として世論が大きな懸念を抱いていることが明らかになった格好だ。産経新聞の取材に対して「JR東日本は話し合いを基本としてきたこれまでの路線とは一線を画す」と不快感を示すなど、30年間続いてきたJR東日本労使の蜜月関係は事実上破綻していると見られる。一方のJR東労組は「春闘に関するスト権は確立していない」とコメントしている。

### スト権「一票投票」の驚きの実態が明らかに！

さらに、同日の産経新聞に掲載された特集記事では、JR東労組が昨年末まで行ったスト権確立「一票投票」の職場での模様が赤裸々に記述されている。ある男性組合員の声として、「労組の役員数人が一人ずつ部屋に招き入れ、目の前で賛否を書き込ませる投票所もあった」という驚きの証言もなされている。取材に応じた男性組合員は、労組から感じる圧力に表情を曇らせたという。

**組合員に圧力かけるのは、もはや労働運動ではない！  
30年を節目にJR労働界の民主化を実現しよう！**